第１０節　関連団体

１　公益社団法人大牟田市シルバー人材センター

（1）シルバー人材センターの概要

＜設　　立＞

法 人 格　　公益社団法人
設立許可　　昭和６１年４月１日許可
　　昭和６１年２月２５日任意団体設立

＜目　　的＞

働く意欲と能力をもった高年齢者（６０歳以上）に、生きがいづくりの場として臨時的かつ短期的なもの又はその他の軽易な業務に係る就業の機会を確保し、組織的に提供することによって、高年齢者の能力の積極的な活用を図り、もってその福祉の増進に資するとともに、活力ある地域社会づくりに寄与することを目的とする。

＜事業内容＞

① 高年齢者の就業に関する情報の収集及び提供
② 高年齢者の就業に関する調査研究
③ 高年齢者の就業に関する相談
④ 臨時的かつ短期的な就業（雇用によるものを除く）又はその他の軽易な業務に係る就業（雇用によるものを除く）を希望する高年齢者に対するこれらの就業機会の確保と組織的な提供
⑤ 臨時的かつ短期的な雇用による就業又はその他の軽易な業務に係る就業（雇用によるものに限る）を希望する高年齢者のための職業紹介事業及び一般労働者派遣事業
⑥ 高年齢者に対する臨時的かつ短期的な就業及びその他の軽易な業務に係る就業に必要な知識及び技能の付与を目的とした講習の実施
⑦ その他高年齢者のための臨時的かつ短期的な就業及びその他の軽易な業務に係る就業に関し必要な業務及びセンターの目的を達成するために必要な事業の実施

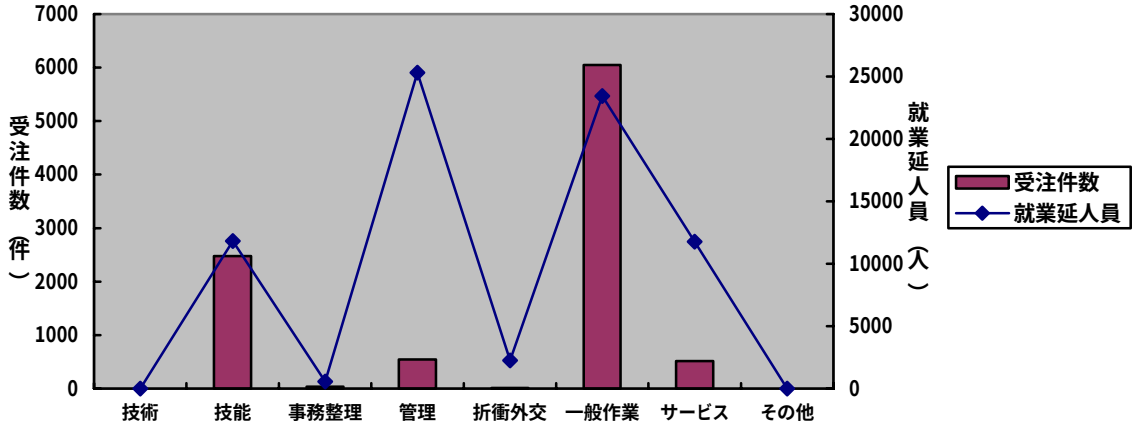
＜機　　構＞　　（平成２５年４月１日現在）

理 事 長 ―― 役　　員（理事１５　監事　２）
└―― 事務局長 ― 事務局次長 ―― 総務課長 ― 総務担当（２名）
　　業務課長兼務
　　└―― 業務主任 ― 業務担当（２名）

（2）平成２４年度事業実績及び会員数

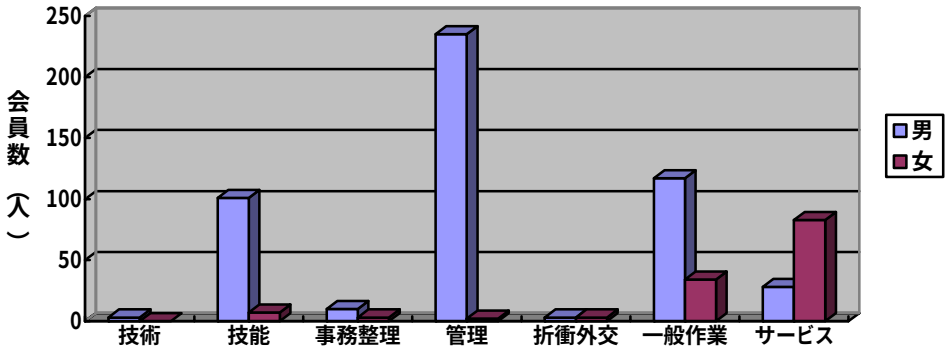
①事業実績（職種別）

区　　分	受注件数	就業延人数	事　業　収　入	構 成 比
技　　術	8	19	42,400	0.0%
技　　能	2,557	12,108	63,472,140	24.7%
事務整理	47	342	719,895	0.3%
管　　理	519	25,239	83,943,322	32.7%
折衝外交	21	3,867	3,764,881	1.5%
一般作業	6,044	23,057	70,835,083	27.6%
サービス	541	11,416	33,921,922	13.2%
そ の 他	0	0	0	0.0%
合　　計	9,737	76,048	256,699,643	100%



②会員数（希望職種別）

希望職種	男	女	計	構成比
技　　術	6	0	6	1.0%
技　　能	96	8	104	17.0%
事務整理	11	5	16	2.6%
管　　理	233	2	235	38.5%
折衝外交	2	4	6	1.0%
一般作業	110	35	145	23.7%
サービス	21	78	99	16.2%
計	479	132	611	100.0%



1）事業実績

一般家庭、事業所、公共団体から仕事を受注し、事業を実施した。地域経済の低迷や厳しい雇用情勢の中で、事業実績は前年度と比べ、微減（前年度比 0.3%減）した。

2）普及啓発事業

(1) センター事業の普及啓発活動

①会員の拡大及び就業の拡大を図るため、市民及び事業所向けのチラシを作成し、市内全戸配布や就業先近隣での配布等に取り組んだ。

②行政の介護保険窓口にチラシを置き、地域包括支援センターと連携し、地域の高齢者の福祉・家事援助事業の拡大・拡充に取り組んだ。

③銀座通商店街の十日市や夏のひまわり畑等のイベントへ参加し、リサイクル事業の品物や生きいきシルバー農園の農作物の販売を行い、センター事業の普及啓発に取り組んだ。

④地元新聞社へセンター活動の情報提供を行うとともに、１０月のシルバー人材センター全国普及促進啓発月間に市行政及び市議会へセンター事業への支援要請を実施した。

⑤無料情報誌「どがしこでん」やホームページを活用し、会員の拡大及び就業の拡充を図るために情報発信を行った。

(2) 社会参加・ボランティア活動

①「大蛇山まつり」市民総踊りへの参加（参加者３９名）と会場の清掃奉仕活動（参加者８０名）

②高齢者生きがい創造センター周辺の樹木剪定、除草作業（１０月６日（土）参加者８２名）

③市役所の樹木剪定、清掃奉仕活動（１０月２０日（土）参加者６５名）

3）安全・衛生、適正就業の強化

「安全はすべて優先する」を基本として、安全・衛生委員会の開催、安全パトロール、高齢者交通安全講習会等を実施した。また 24 年度は猛暑が続いたため、各職群の班長会議で夏場の事故防止と熱中症対策への注意喚起を行った。24 年度の就業中の傷害事故・物損事故はそれぞれ６件であり、前年度と比べ、１件ずつ増加した。

4）相談事業

①就業相談の実施

職業訓練生への就業相談を行った。

②入会及び登録説明会の開催

シルバー人材センターへ入会を希望する高齢者を対象に、毎月２回の入会説明会及び毎月１回の登録説明会を実施した。また、入会後の未就業者には、２ヶ月を目途に、未就業による退会を防止するために他職種への登録変更等の就業相談を行った。

5）研修・講習事業

(1) 子育て支援講習会

①レクリエーション講習会

１２月に女性会員９人を対象に、センターにおいてレクリエーション協会の講師による講習会を実

施した。

②接遇研修会

福祉・家事・育児支援の会員１９人を対象に、センターにおいて福岡県シルバー人材センター連合会講師による接遇研修を実施した。

(2) 屋内清掃講習会

家事援助会員２０人を対象に、センターにおいてプロの講師による清掃講習会を実施した。

(3) 除草講習会

①新人研修会

除草作業を希望する新入会員を対象に、旧新開クリーンセンターにおいて除草班長による実技講習会を実施した。

②全体研修会

除草班の会員を対象に、エコサンクセンターにおいて福岡県シルバー人材センター連合会事務局長による「シルバー人材センター会員の心得及び責任と義務について」の講演会及び「高齢者交通安全講習会」を実施した。

(4) 剪定講習会

①初級講習会

新入会員を対象に、旧新開クリーンセンターにおいて剪定班長４名で２日間にわたり初級剪定講習会を実施した。

②市民講習会

公募した市民１９名を対象に、市内小学校において剪定班長６名で１日間の市民剪定講習会を実施した。

(5) パソコン講習会

福岡県の補助事業を活用し、シルバー世代２７人を対象に、iPad の基礎的な知識及び操作に関する講習会を実施した。

6）調査研究事業

福岡県共助社会づくり事業（新しい公共の場づくりのためのモデル事業）を活用し、市民及び企業を対象にアンケート調査を実施し、地域社会のニーズの情報収集を行った。また、シルバー世代を対象 iPad を使った能力開発やキャリア調査を実施し、この中からシルバーサポートチームが編成され、センターの営業活動や仕事づくり等への提案を受けた。

２　社会福祉法人大牟田市社会福祉協議会

根拠法令等	社会福祉法（第 109 条）	所 管 課	保健福祉総務課 地域福祉推進室

(1) 社会福祉協議会とは

社会福祉協議会は、社会福祉法に位置付けられ、住民の社会福祉に対する関心と理解を深め、地域における社会福祉の増進に努めるという理念のもとに、全国の都道府県市町村に設立されている。民間組織としての「自主性」と住民や社会福祉関係者に支えられた「公共性」という２つの側面をあわせ持った組織で、地域住民による福祉活動の組織化、社会福祉を目的とする事業の連絡調整及び事業の企画・実施等を行い、地域福祉活動の中心的な役割を担っている。

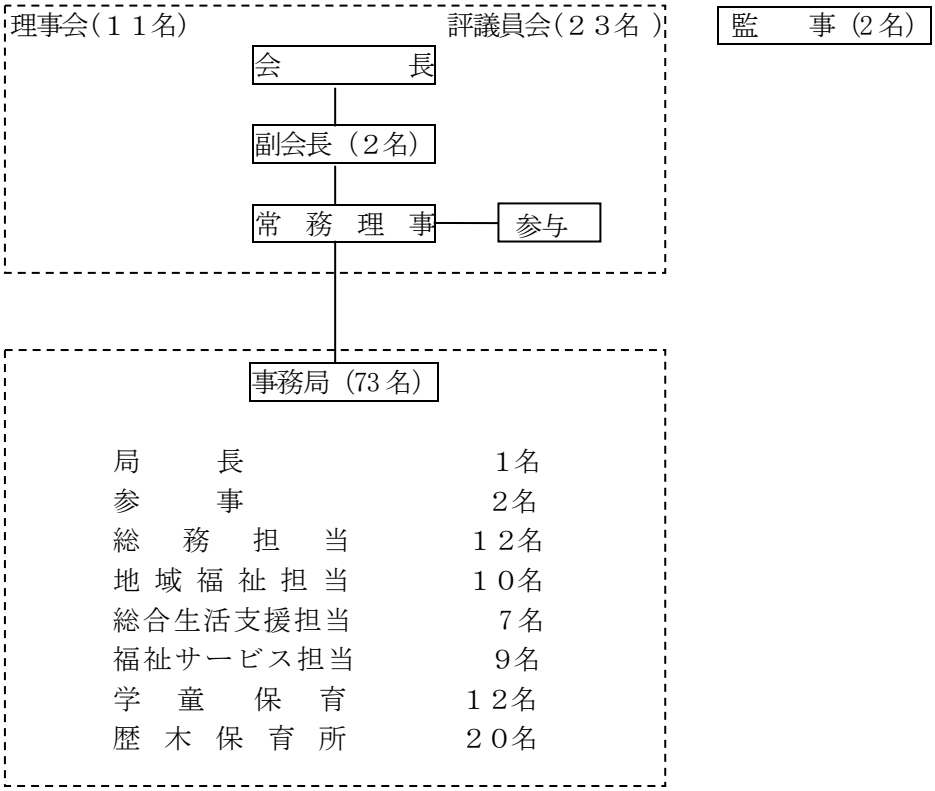
平成１２年に社会福祉事業法が大幅に改正され社会福祉法となり、その第１０９条では、社会福祉協議会は、「地域福祉の推進を図ることを目的とする団体」であると明記された。

大牟田市社会福祉協議会は、昭和２６年に任意団体として発足し、昭和４７年に社会福祉法人の認可を受け、以来、大牟田市の地域福祉推進役として住民のニーズにあった様々な事業活動を展開している。

現在は、「地域福祉推進と絆」をキーワードに、地域における様々な生活上の諸問題を地域全体の課題としてとらえ、みんなで考え、話合い、協力して解決を図る心ふれあう「誰もが安心して暮すことができるまちづくり」を目指し、関係機関・団体および行政等と協働して、様々な福祉課題の解決に積極的に取り組んでいる。

(2) 社会福祉協議会の機構と組織構成

（平成２５年８月１日現在）



評議員及び理事選出区分一覧表			
区分	所　属　名	評議員	理　事
1	校区社会福祉協議会代表	6	1
2	民生委員・児童委員代表	2	1
3	町内公民館連絡協議会代表	1	1
4	社会福祉事業施設代表	2	1
5	福祉団体代表	3	1
6	ボランティア団体代表	1	1
7	ＮＰＯ法人代表	1	0
8	社会福祉関係公務員代表	1	1
9	市議会代表	1	1
１０	学識経験者	5	3
合　計		２３名	１１名

(3) 社会福祉協議会の実施事業

東日本大震災から２年が経過いたしましたが、今なお、多くの被災者が困難な生活を強いられている。復興への道程は相当の期間にわたるものとされる中、時間的経過とともに変化するニーズを踏まえ、これからも継続して被災者支援に取り組んでいきたいと考えている。また、昨年７月、九州北部豪雨災害に見舞われ、各地の社協で災害ボランティアセンターが立上げられ、多くの災害ボランティアの支援活動を得て、早期に復旧できたことは大きな成果でもありました。本会においても、近隣災害ボランティアセンター支援事務局を立上げ、スタッフや災害ボランティアを派遣したところである。

さて、昨今の社会情勢は依然厳しく、長期にわたる経済不況が続いている中、少子・高齢化の進展、核家族化による家族機能の低下や若年労働者人口の減少など大きく変化してきている。これまで、家族や地域等が有してきた相互扶助機能が著しく低下する中で、介護や子育て、孤立、虐待、貧困などの生活支援を必要とする地域福祉課題がクローズアップされ、これらの問題解決のためには公的サービスだけでは対応できない状況が増えている。そのような中、地域福祉の推進役としての社会福祉協議会の使命は非常に重要であり、様々な情報、交流、ネットワーク活動を行政や関係機関と協働し、地域における課題解決のための中心的な役割を担うことが求められている。

上記の状況を踏まえ、平成24年度事業について第２次地域福祉実践計画の３本の活動指針に沿って報告する。

活動指針１「つながり、支えあいのある“あたたかい地域”を実現する」

校区社協会長連絡協議会や民生委員・児童委員協議会と協働し、福祉委員による要援護者の見守り・訪問活動を各校区で実施している。

また、高齢者等の憩いの場、介護予防の場、子育て支援の場としてのサロン活動については、実践計画の目標値を超えた。次年度からは、サロンの活性化に努める。

子育て支援においては、くぬぎ保育所が民間移譲されてから、下半期以降は定員90名を確保、継続することができた。さらに市受託事業として、学童保育所運営事業・ファミリーサポートセンター運営事業などに取り組んた。

活動指針２「小さな声にも応える福祉サービスを提供し普及に努める」

おおむたキャロットサービス（住民参加型福祉サービス）は、市民に対して徐々にサービスが定着するようになり、年間活動件数も昨年度の倍以上の伸びとなった。今後も、協力会員・利用会員の登録の増加を目指し、大牟田特有のインフォーマルサービスとして拡充していく。

高齢者等福祉対策については、高齢者、障がい（児）者に対する介護保険事業・障害者自立支援事業をはじめ、住民の悩みなどを解決に導く総合相談事業、低所得者等に対する貸付事業（県社協受託事業）や日常生活自立支援事業（地域権利擁護事業）に取り組んた。また、介護保険事業として昨年３月より総合福祉センター３Ｆでオープンした小規模デイサービス“ふれあい処えいる”も、当初目標よりも利用者が増え、順調な事業運営となった。

広報については、機関紙「きらり」の発行をはじめ、社協ホームページの充実、事務局通信「きらり」の月１回発行など、情報提供の充実に努めた。

活動指針３「誰もがまちづくりに参加できる活動をすすめる」

平成２４年度は、ボランティアセンターの活性化に向けて、ＮＰＯ・ボランティア・市民活動関係者等と協

働体制が構築されるよう、定期的に話し合いを重ねた。
加えて、非常時に災害ボランティアセンターの設置がスムーズにできるよう、市・県内外の社協ネットワークを活用し災害対応の体制整備に努めていく。
また、障害福祉総合ボランティア養成講座、市民後見人実践講座などの各種養成講座や第３回共同募金杯校区対抗グラウンドゴルフ大会＆社協“絆”フェスティバル、第４回大牟田市地域福祉大会、知的障がい児・者医療支援プロジェクト、コミュニティバス運行支援など、多職種協働で様々な事業に取り組んだ。

(4) 校区社協活動への支援

①校区社協会長研修会の開催

校区社協会長が大牟田市の地域福祉の現状等を捉え、校区社協間で連携を深めることにより自校区での地域福祉活動の向上を図ることを目的に校区社協会長研修会を開催。各校区の事例発表を通して意見交換を実施し、横のつながりの充実を図った。

【開催日】平成 24 年 6 月 15 日（金）
【場　所】総合福祉センター　中会議室
【内　容】■講演
「一人の百歩より、百人の一歩」
駛馬南校区社協　会長　汐待 律子　さん
■事例発表
（1）「住民組織の連携について」
手鎌校区社協　会長　猿渡 英昭　さん
（2）「ふれあい活動推進員の活動について」
笹原校区社協　会長　三浦 紀子　さん
（3）「校区社協と NPO の協働によるまちづくり」
三池校区社協　会長　岡本 雅子　さん
【参加者】21 名

②合同研修会の開催

地域リーダーである校区社協・民児協・連協・まち協の各会長が、地域福祉活動の推進方法等を研修・研鑽することを目的に合同研修会を開催した。今年度のテーマは「災害」。

【開催日】平成 24 年 11 月 15 日（木）
【場　所】総合福祉センター　大会議室
【内　容】■講演
「そのとき地域はどう動いた」
～九州北部地方豪雨災害の経験から～
（講師）
うきは市社会福祉協議会　國武　竜一さん
【参加者】61 名

(5) 小地域ネットワーク活動の拡大

地域における小地域ネットワーク活動を活性化していくために、平成 18 年度に福祉委員制度が発足した。各校区の世帯数に応じ、概ね 100～150 世帯に 1 人の割合で配置された福祉委員が、見守り・訪問・支援活動を行っている。改選期である平成 24 年度は、4 期目の福祉委員 361 名が福祉委員として委嘱を受け、市内各地で活動展開中である。

平成 24 年 7 月 10 日～14 日にかけて、福祉委員の役割や地域福祉活動の意義等について総合福祉センターで「福祉委員研修会」を開催した。また、各校区において、小地域ネットワーク活動における福祉委員と民生委員・児童委員等との連携等をテーマに福祉座談会や意見交換会等を下記のとおり実施した。

(福祉座談会等の実施状況)　　※市社協が出席した分のみ掲載

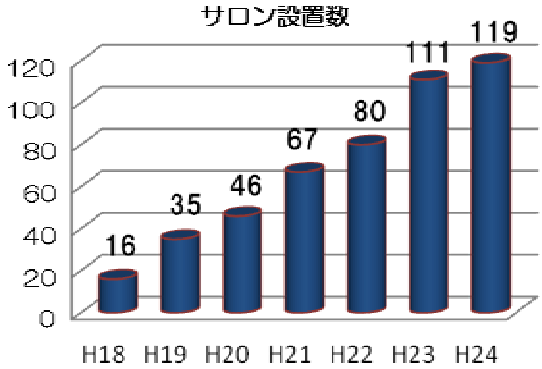
開催日	校　区	参加者（人）	開催日	校　区	参加者（人）
7 月　7 日	手　鎌	40	10 月 24 日	三　池	40
8 月　6 日	中　友	36	11 月 12 日	天　道	30
8 月 17 日	明　治	24	12 月　2 日	吉　野	30
8 月 18 日	倉　永	23	12 月　5 日	みなと	26
8 月 30 日	白　川	40	1 月 17 日	羽山台	20
9 月 21 日	大牟田	30	1 月 27 日	倉　永	28
9 月 28 日	白　川	40	2 月 25 日	玉　川	13
10 月 15 日	笹　原	30			

(6) ふれあいサロン活動の拡大

①ふれあいサロン事業の推進

地域に住む高齢者や子育て中の人達や障がいを持った人達が地域で楽しくすごす憩いの場、集いの場として重要視されている“ふれあいサロン活動”を推進した。

３月末現在、119 箇所のサロンが登録されている。



②サロン連絡会の開催

サロン活動の活性化および団体相互の親睦と情報交換を目的として、各サロンの取り組みの紹介や、レクレーション講習会等を実施した。11 月 29 日（木）に総合福祉センター大会議室にて、第１回サロン連絡会を開催した。3 人のサロンの代表者に、日頃のサロン活動等の事例発表をいただいた。参加者にも、それぞれのサロンの取組みについて経費の仕組み・工夫や実施方法等について活発に質問をいただいた。3 月 28 日（木）、イオンホールにて開催した第２回サロン連絡会では、市の生涯学習課や長寿社会推進課からの各種出前講座や「よかばーい体操」等のお知らせの後、「サロンで使える“楽しい”レクリエーション」と題してヒューマン・コミュニケーション研究所の添田譲二先生にご指導いただいた。「リズムでグー・チョキ・パー」（手の運動）や「キャッチ棒くん」（新聞紙とカラービニールテープを使ったゲーム）等、実際サロンで気軽に遊べるゲームを多く紹介いただいた。

(7) 子育て支援事業

①子育てきらりフェスタの開催

子育て中の母親たちの情報受発信と子育て支援の一環として、子育て中の親子が楽しめるイベントを実施。本年度は、父親のイベント参加のきっかけづくりとしての夏祭りやプレーパークのほか、母親たちの特技や意見を取り入れたイベントも実施した。

■開催日：７月 21 日（土）　第 11 回　夏祭り　　来場者：約 200 人
　　９月 15 日（土）　第 12 回　プレーパーク　　来場者：約 300 人
　　２月 16 日（土）　第 13 回　企画はママ！　　来場者：約 200 人

②マザーリーフ

子育て中のお母さん同士の情報交換の場や子どもとのふれあいの場として毎週水曜日（第５週は除く）に開催した。

■内容：読み聞かせ、体重・身長計測、季節の行事、自由遊び等

(参加者数:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
大人	35	38	47	35	32	46	36	52	44	34	42	24	466
子ども	38	38	49	41	38	59	42	66	58	46	57	34	566
ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ	2	3	2	2	2	5	4	10	8	11	8	8	65
計	75	79	98	78	72	110	82	129	110	91	107	66	1,097

③子育て情報誌れみぃの発行

子育て情報誌「れみぃ」を年3回、地元新聞社と共同発刊し、子育て世代や関係者への情報発信に努めた。

■発 行 日： 5号（6/26）、6号（10/30）、7号（3/12）

■発行部数：各15,000部

■配 布 先：幼稚園・保育園、学童保育所、病院、ゆめタウン大牟田、イオンモール大牟田、JR大牟田駅等

④チャイルドシート貸出状況

家庭で不要になったチャイルドシートを譲り受け、必要としている子育て家庭に貸し出した。

(貸出状況)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	33	17	11	38	26	39	31	24	35	34	10	28	326

⑤情報掲示板「Babecle（ベビクル）」の運営

使わなくなった育児用品をゆずりたい人から必要な人に渡すための情報をホームページ等を通して提供したが、4月10件、5月5件の譲り渡しが成立しただけであった。今後は有効に活用されるような広報等の工夫が必要である。

(8) ファミリー・サポート・センター事業（市受託事業）

子育てのお手伝いをしたい人（協力・相互会員）と子育ての手助けをしてほしい人（利用会員）との相互援助活動（コーディネイト）を行うとともに、協力・相互会員養成講座の実施や事業の周知啓発に努めた。

① 講座の開催

養成講座	平成24年6月26日（火）・29日（金）・7月3日（火）・6日（金）４日間 計8時間（８名登録）
ｽﾃｯﾌﾟｱｯﾌﾟ講座	平成24年6月21日（木）・11月27日（火） 平成25年2月16日（土）【公開講座】　　計6時間
安全対策講習会	平成24年11月16日（金）

② 会員数及び活動状況

(会員数)

	22年度	前年比（%）	23年度	前年比（%）	24年度	前年比（%）
利用会員	623	94.9	675	108.3	719	106.5
協力会員	120	107.1	128	106.6	128	100.0
相互会員	80	102.5	87	108.7	93	106.9
合　　計	823	97.2	890	108.1	940	104.5

(活動状況)

活　動　の　主　な　内　容	22年度件数	23年度件数	24年度件数	前年比(%)
保育所・幼稚園・学校・学童の登園登所前の預かり及び送り	332	144	47	32.6
保育所・幼稚園・学校・学童の迎え及び帰宅後の預かり	258	249	43	17.3
子供の病気時の援助	24	27	14	51.9
子供の習い事等の場合の援助	189	278	147	52.9
保育所・学校等休み時の援助	19	16	26	162.5
保護者等の短時間・臨時的就労・求職活動中の援助	11	51	9	17.6
保護者の冠婚葬祭による外出、他の子供の学校行事の場合の援助	0	3	7	233.3
保護者等の外出の場合の援助	62	79	34	43.0
保護者の病気、その他急用の場合の援助	81	129	4	3.1
その他	2	19	11	57.9
合　　計	978	995	342	34.4

※利用件数が昨年と比較して大幅に減少した要因としては、定期利用者の対象上限年齢（小学校6年生）到達や保育園等での延長保育及び休日保育の実施、幼稚園での低料金での預かり事業など大牟田市における子育て支援事業の充実などが考えられる。

(9) 放課後児童健全育成事業 (学童保育所･市受託事業)

放課後児童対策として、昼間児童（小学校１年生～概ね小学校３年生）の養育ができない家庭などの児童に対して、適切な遊びと生活の場を提供することにより、児童の健全育成を図った。

(入所児童数:平成25年3月31日現在)

学童名	三　池	高　取	中　友	白　川	大牟田	平　原	合　計
児童数（人）	31	9	15	38	43	15	151

(10) くぬぎ保育所運営事業

大牟田市からの民間移譲を受け１年が経過した。園児や保護者が不安にならないように公立での保育方針を踏襲しつつ、毎月の行事についても田植えや味噌作りなどの食育や高齢者施設を訪問し世代間交流を行うなど新たな取り組みを行った。さらに園外の方に「どんぐり通信」を発行し、保育情報の発信はもとより未就園児とその保護者に対して保育体験を実施するなどの取り組みを行い、地域の子育て支援拠点としての役割を担った。

(各月初日児童数)

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
4月	3	10	16	16	13	18	76
5月	3	11	17	16	13	18	78
6月	4	12	17	16	14	18	81
7月	4	14	18	17	14	18	85
8月	6	14	18	18	14	18	88
9月	6	14	17	18	14	18	87
10月	8	14	18	18	15	18	91
11月	9	15	19	18	16	18	95
12月	10	15	19	18	16	18	96
1月	10	15	20	18	17	18	98
2月	10	15	20	18	16	18	97
3月	10	15	20	18	17	18	98

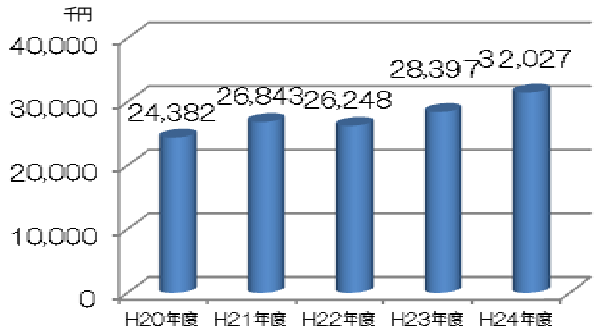
実施日	主な行事内容	実施日	主な行事内容
4月　1日	入園式	10月　7日	運動会
5月　5日	子育て講演会	10月15日	芋ほり、稲刈り体験
5月18日	バス遠足（干潟よか公園）	11月　8日	ふれあい動物園
6月30日	田植え体験	12月22日	クリスマス会
7月14日	親子味噌作り体験	12月26日	三池学童保育所との交流会
7月28日	ちびっこ総踊り	1月　8日	世代間餅つき交流会
8月4日～5日	年長児お泊り保育	2月　1日	豆まき
9月　1日	親子ふれあいバザー	3月17日	卒園式
9月　5日	「ふれあい処えいる」利用者との第1回交流会（24年度は12回実施）		

(11) 高齢者福祉対策の推進

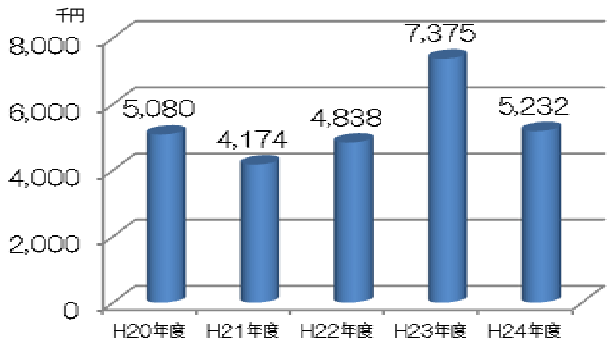
①介護保険事業の充実

訪問介護（ホームヘルパー派遣）、訪問入浴（入浴車による訪問入浴）、居宅介護（ケアプランの作成）、通所介護（ふれあい処えいる）の４事業を実施し、要支援、要介護者の在宅生活を支援した。

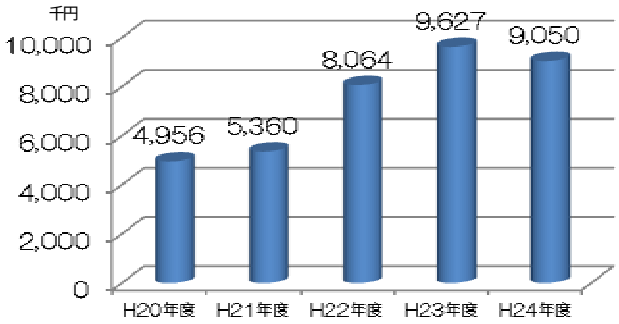
訪問介護事業（ホームヘルプ）実績



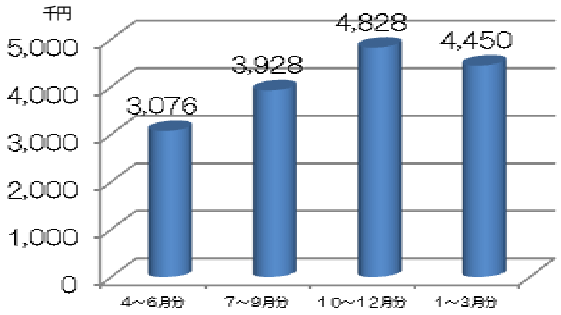
訪問入浴事業（入浴サービス）実績



居宅介護支援事業（ケアプラン）実績



通所介護事業（ふれあい処えいる）四半期実績



(各年度事業実績)

事　業　名		20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度
訪問介護サービス	収入（円）	24,382,462	26,843,182	26,248,165	28,396,728	32,027,405
	件数（件）	6,832	7,637	7,411	8,239	9,683
訪問入浴サービス	収入（円）	5,080,000	4,173,859	4,837,532	7,374,639	5,232,207
	件数（件）	393	321	374	549	411
居宅介護支援事業	収入（円）	4,955,500	5,359,500	8,063,700	9,627,140	9,050,200
	件数（件）	575	586	652	810	847
通所介護（えいる）	収入（円）	—	—	—	377,423	16,283,080
	件数（件）	—	—	—	36	1,763
総合計	収入（円）	34,417,962	36,376,541	39,149,397	45,775,930	62,592,892
	件数（件）	7,800	8,544	8,437	9,634	12,704

【平成 24 年度介護保険事業の総括】
■訪問介護事業では前年度実績より 3,631 千円増となり、事業件数についても、延 1,444 件増となった。
当初予算と比較するとほぼ同額程度なり、当初目標より 6%増で達成。
■訪問入浴事業では前年度実績より 2,142 千円減となり、事業件数は 138 件減となり、当初目標は未達成。
■居宅介護支援事業では前年度実績より 577 千円減、当初予算比較で 2,872 千円減、当初目標未達成。
■通所介護（えいる）事業では、当初１日あたり 5.5 人の利用者を予算計上していたが、下半期より、平均６人を下回ることはなくなった。初年度の決算としては、上々の滑り出しとなった。
※４事業合計として、前年度実績と比較すると 16,817 千円収入増という結果となった。

②介護予防･相談センターの運営（市受託事業）

中央地区包括支援センターのサブセンターとして、平原・上官校区を担当し、要介護認定により要支援と認定された高齢者及び二次予防事業対象の高齢者に対して、介護予防プラン等の作成や訪問を行うことにより高齢者の心身の健康保持、生活の安定のために必要な支援を関係機関、サービス実施事業者等と連携して実施した。さらに平成 24 年 10 月の地域包括支援センター再編を受け、白川・大牟田・大正・中友校区を新たに担当した。

(各年度事業実績)

事　業　名		20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度
介護予防・相談センター	収入(円)	3,129,000	3,511,080	3,442,720	3,779,360	4,853,480
	件数(件)	621	701	660	762	704

③日常生活自立支援事業

認知症高齢者、知的障がい者、精神障がい者など判断能力が不十分なため、日常生活に困っている人たちに対して生活支援員を派遣し、自立した生活ができるよう福祉サービスの利用援助や日常的金銭管理等を行った。

(実施状況)

	22 年度	前年比（%）	23 年度	前年比（%）	24 年度	前年比（%）
人　数	20	117.6	27	135	40	148.1
件　数	227	156.6	451	198.6	615	136.4

④「在宅介護者の会」活動支援

在宅介護者に対する情報提供、相互交流を目的とする「在宅介護者の会」の事務局を担い、様々な活動支援を行った。

■大牟田市在宅介護者の会「げんきかい」…会員数 23 人
【目　的】在宅介護者が本音で語り合い、交流することを通じて、「介護」にかかる課題を解決していくことを目的に実施。
【定例会】毎月第４水曜日に実施。
※介護体験を語るおしゃべり会を中心に、学習会、花見・新年会などを実施。また、年 2 回、日帰り温泉旅行などリフレッシュ事業にも取り組んだ。
【その他】会員増のため、社協だより「きらり」での広報やチラシの見直しを実施した。在宅介護者の声を発信するため、大牟田市地域包括支援センター運営協議会に委員として出席している。

⑤車椅子貸出事業

在宅の高齢者・障がい（児）者等に対して、日常生活の便宜と介護者の負担軽減を図るため、延 95 人に無料で車椅子を貸し出した。

(貸出実績)

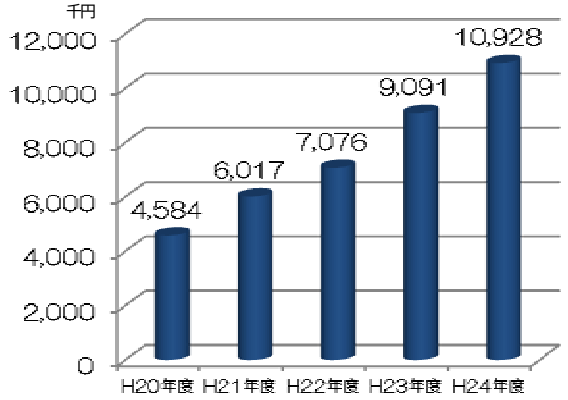
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
件数	11	6	5	2	11	6	15	4	9	3	12	11	95

(12) 障がい児･者福祉対策の推進

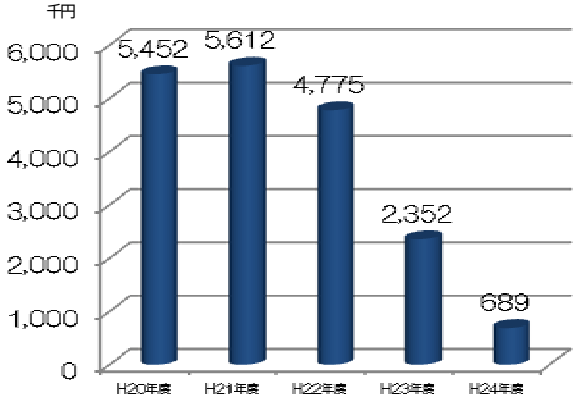
①障害者自立支援サービス事業

障害区分認定を受けた在宅の障がい者に対して、居宅サービス（ホームヘルパー派遣）、移動支援（ガイドヘルパー派遣）、訪問入浴（入浴車による訪問入浴）、の３事業を実施し、在宅生活を支援した。

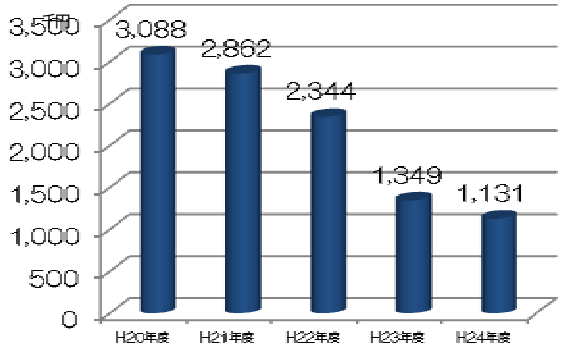
障害者居宅サービス事業（ホームヘルプ）実績



障害者移動支援事業（ガイドヘルプ）実績



障害者訪問入浴サービス事業実績



【平成 24 年度障害者
自立支援サービス事業の総括】

■居宅サービス事業では前年度実績より 1,837 千円増、事業件数については、233 件の増となった。これは、移動支援事業の一部である視力障がい者ガイドヘルプサービスが、居宅サービス事業（同行援護）へ移行したことが要因。

■移動支援事業では前年度実績より 1,662 千円の減となったが、これは、視力障がい者のガイドヘルプサービスが、居宅サービス（同行援護）へ移行したことによるもの。

■訪問入浴サービス事業では前年度実績より 219 千円減、事業件数も 23 件減となった。これは利用者減によるもの。当初目標は未達成。

※3 事業合計として、前年度実績と比較すると
44 千円収入減という結果となった。

(各年度事業実績)

事　業　名		20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度
障害者居宅サービス事業	収入（円）	4, 584, 032	6, 017, 141	7, 076, 318	9, 091, 037	10, 927, 730
	件数（件）	1, 745	2, 106	2, 092	2, 493	2, 726
障害者移動支援事業	収入（円）	5, 451, 986	5, 611, 926	4, 774, 662	2, 351, 593	689, 370
	件数（件）	1, 338	1, 374	1, 261	687	355
障害者入浴サービス事業	収入（円）	3, 087, 500	2, 861, 875	2, 343, 650	1, 349, 000	1, 130, 500
	件数（件）	351	327	262	142	119
総 合 計	収入（円）	13, 123, 518	14, 490, 942	14, 194, 630	12, 791, 630	12, 747, 600
	件数（件）	3, 434	3, 807	3, 615	3, 322	3, 200

②知的障がい児･者医療支援プロジェクト

平成 23 年 1 月に始動した“知的障がい児・者医療支援ニーズ調査プロジェクト”を発展継承し、平成 23 年 5 月に「知的障がい児・者医療支援プロジェクト」を立ち上げた。

知的障がい児・者は、その障がい特性や周囲の理解不足等により、医療機関を受診することが困難な現状がある。その課題を解決するため、知的障がい児・者を取り巻く医療に関するニーズを明らかにする調査を実施。その結果を調査報告書及び DVD にまとめ、保健師や民生委員・児童委員、特別支援学校、大牟田障害者協議会等を対象に、報告会を行ってきた。

平成 24 年度は、地域福祉活動者への報告会を行い、障がいへの理解を深めるとともに、医師会・歯科医師会の理事会において、このようなニーズがあることを報告し、課題解決に向けたパートナーシップ構築の第一歩を踏み出すことができた。

また、教育分野においては、知的な障がいを持つ生徒と接する機会の多い養護教諭・特別支援教育担当者を対象に報告会を開催した。いずれの報告会でも強い関心を寄せていただき、「もっと知りたい」という声も多数頂いた。

今後は、繋がることができた関係機関との連携をより一層深め、実践計画に基づき、医療機関・教育機関・当事者への働きかけを行うことで、具体的な解決へとつなげていく。

(プロジェクト会議及び報告会の実施状況)

日　程	プロジェクト会議及び報告会
4 月 24 日	第 13 回　知的障がい児・者医療支援ＰＴ会議
5 月 16 日	社協ヘルパー研修会
5 月 26 日	駛馬南校区社協研修会
6 月　5 日	第 14 回　知的障がい児・者医療支援ＰＴ会議
7 月 17 日	第 15 回　知的障がい児・者医療支援ＰＴ会議
7 月 27 日	第 2 回　教育委員会との意見交換会
8 月　4 日	玉川校区社協福祉座談会
8 月 21 日	第 16 回　知的障がい児・者医療支援ＰＴ会議
8 月 22 日	大牟田 MSW 勉強会
10 月　2 日	第 17 回　知的障がい児・者医療支援ＰＴ会議
10 月 24 日	大牟田市歯科医師会理事会
11 月　7 日	大牟田市医師会理事会
11 月 27 日	第 18 回　知的障がい児・者医療支援ＰＴ会議
12 月 18 日	第 3 回　教育委員会との意見交換会
1 月 22 日	第 19 回　知的障がい児・者医療支援ＰＴ会議
2 月　1 日	大牟田市養護教諭研修会
2 月 12 日	大牟田市特別支援教育担当者研修会
2 月 26 日	第 20 回　知的障がい児・者医療支援ＰＴ会議

(13) 総合相談事業の推進

①福祉サービス苦情解決相談

在宅福祉サービス利用における様々な問題について、当事者間で解決できない場合「第三者委員会」でその解決を図るため設置しているが、平成 24 年度は相談依頼がなく、開催していない。

②行政書士による法務相談

毎月第 3 水曜日に行政書士による法務相談を実施し、家庭、離婚、金銭貸借、財産相続、事故などの相談に親身になって対応し、高度な対処法について無料弁護士相談や関係機関へ橋渡しをした。平成 24 年度実績は、49 件。

(相談件数)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
件数	8	5	2	9	－	3	8	2	2	6	4	－	49

③生活福祉資金貸付事業（県受託事業）

低所得者、高齢者及び障がい者等の世帯に対して、生業、住宅、災害、福祉、修学、緊急小口、離職者等の各種資金の貸付相談の受付を行い、民生委員の協力のもと、借受世帯の自立に向けた指導、支援を行った。件数減の主な要因としては、リーマンショック後の失業者が緩やかながらも落ち着きはじめ、従来の形に戻ったものと思われる。

【相談受付件数】 365 件　　【貸付決定件数】 19 件

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
相談受付	25	31	27	37	27	28	23	23	23	48	31	42	365
貸付決定	0	2	1	3	2	0	0	1	0	3	3	4	19

④住宅手当緊急特別措置事業（市受託事業）

住宅手当緊急特別措置事業は、離職者であって就労能力・就労意欲のある人の中で、住宅を喪失しているか、喪失するおそれのある人に対して住宅手当を支給することにより、これらの人に住宅及び就労機会の確保に向けた支援を行うことを目的としている。

この事業を実施するに当たっては、市保護課やハローワークと連携し、「福祉から就労」支援事業を活用したり、必要に応じては本会が窓口である生活福祉資金貸付事業を併用しながら、当事者の支援にあたった。

【相談件数】　39 件
（うち面接相談 31 件、電話相談 8 件）
【申請件数】　8 件
【支給決定件数】　8 件
【就職決定者数】　6 件

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
相談受付	1	6	0	2	4	3	4	5	2	2	5	5	39
支給決定	0	1	0	0	0	2	1	1	1	0	1	1	8

（14）社協広報の充実

①広報紙「きらり」の発行

年 4 回（4 月・7 月・10 月・1 月）、全世帯を対象に発行している社協福祉情報「きらり」を発行した。

②社協事務局通信「きらり」の発行

毎月 1 回、社協事務局通信「きらり」を発行し、タイムリーな情報を提供した。

③社協ホームページ（http://www.omshakyo-kizuna.com/）

社協の様々な活動・事業内容を紹介、また社協職員日記を毎日掲載した。

（15）ボランティアセンター充実強化

①ボランティア情報提供と啓発

地域において、ボランティアを必要とする人とボランティアをしたい人を結ぶために、登録団体名簿・ボランティアニード情報誌を用いボランティアが自分の希望する活動を選択できるよう、コーディネート機能の充実に努めた。

（ボランティアセンター登録状況）

	22 年度	前年比（%）	23 年度	前年比（%）	24 年度	前年比（%）
グループ（団体）	52	96.3	35	67.3	51	145.7
個　　人（人）	61	26.5	16	26.2	29	181.2

②登録ボランティアの研修・交流

登録ボランティア団体同士の相互理解を深めることを目的に情報交換会を行った。このとき市内で活動されている「あんしん介護相談員」も参加されお互いの活動紹介を行った。また、フォローアップとして講師（福岡県ボランティアセンター　今村晃章さん）を迎え、ボランティア活動のスキルアップを目指し、研修会を実施した。このような取組が好評だったこともあり、平成25年1月にはボランティア登録団体・個人がお互いの活動状況を紹介し、登録団体同士の横のつながりをつくるため、ボランティア連絡協議会との共催でボランティア交流会を実施した。午前は演芸発表、午後は情報交換会を行い、和やかな雰囲気の中で参加者同士親睦を深めた。

③傾聴ボランティア養成講座

地域におけるコミュニケーションの希薄化が進む中、「心の豊かさ・心のケア」が求められる昨今、相手の気持ちに寄り添い、心を込めて話を聴く「傾聴ボランティア」を養成することにより、その悩みや寂しさの解消への一端を担うことを目的に平成24年10月16日（火）より６回にわたって「傾聴ボランティア養成講座」を開催した。修了後は新しく傾聴グループ「だんぼ」が結成された。

④障がい福祉総合ボランティア養成講座

障がいに対する理解を一層深め、当事者と地域との架け橋となっていただけるボランティアの養成を目的として、大牟田市障害者協議会及び障害者相談支援事業所との協働により、高校生を対象に出前講座を実施した。また、21・22年度受講者に対してフォローアップ研修を行った。

⑤おもちゃの図書館“くるりん”の支援

おもちゃの図書館“くるりん”に関わるボランティアを増やすために、平成24年11月10日より3回にわたって「おもちゃの図書館ボランティア養成講座」を実施した。

（開催状況）

開催日	11月10日	11月17日	11月24日
参加者	9名	9名	13名

⑥近隣災害ボランティアセンター支援事務局の設置

平成24年7月の九州北部豪雨災害時に、近隣災害ボランティアセンター支援事務局を立ち上げ、介護サービス事業者協議会、ボランティア連絡協議会、高校、企業等に被災地でのボランティア活動を依頼し、社協職員とともに延155名を派遣した。

〈派遣先：柳川市・うきは市・みやま市〉

（派遣実績）

日　付	派遣先	ボランティア活動者	延人数
7月18日～28日	柳川市	災害ボランティアセンター運営のため 社協職員1名派遣	11名
7月18日	うきは市	サ事協3名・社会人1名・社協2名	6名
7月19日	みやま市	ボラ連6名・サ事協2名・社協2名	10名
7月20日	みやま市	ボラ連1名・サ事協2名・社協2名	5名
7月21日	柳川市	三池工業野球部16名・誠修高校生徒5名・ 社協4名	25名
	みやま市	三池工業野球部32名・サ事協1名・社会人2名・ 社協1名	36名
7月22日	みやま市	三井化学1名・社会人5名・社協5名	11名
7月23日	みやま市	サ事協3名・九電5名	8名

7月24日	柳川市	サ事協２名・社協１名	3名
7月25日	柳川市	九電２名・サ事協３名・社協１名	6名
7月26日	柳川市	三池工業サッカー部24名・サ事協３名・社協１名	28名
7月27日	柳川市	サ事協２名	2名
7月28日	柳川市	サ事協３名・社協１名	4名

⑦ボランティア活動保険の加入状況

地域行事やボランティア活動等を支援するため、ボランティア活動保険の加入受付を行った。

(加入状況)

	22年度	前年比（%）	23年度	前年比（%）	24年度	前年比（%）
加入者数	2,820	109	2,911	103	1,289	44

※加入者減の主な要因としては、保険加入対象者が社協関係者及び社協ボランティアセンター登録団体に限定されたことや大牟田市において市民活動補償制度が創設されたことなどが考えられる。

⑧サロン等サポーター養成事業（市受託事業）

「タブレットDE地域デビュー講座～人生に彩りを～」

大牟田市の超高齢化の現状をふまえ、インフォーマルなサービスの担い手の育成が急務であるとの認識から、これまで生活・介護支援サポーターを養成し、平成22年度より「キャロットサービス」（住民参加型在宅福祉サービス）を実施してきた。本サービスについては、依頼件数の急激な増加に対し、サービスを提供する協力会員の数が充分でない現状がある。特に男性の協力会員が足りておらず、庭木の剪定や家屋修繕といった男性メインの活動への対応が困難という課題がある。そこで男性の関心が比較的高いIT機器（高齢者でも操作が容易なタブレット）を活用し、「I（愛）」で地域をつなぎ、「T（Tea）：茶飲み場」の活性化を図るためタブレット端末（iPad）を活用して地域デビューに繋げる「サロン等サポーター養成講座（全８回）」を実施した。講座実施後、27名（男性：10名、女性：17名）の方がボランティア団体「タブレットDE楽しみ隊（愛称：タブレッツ）」を立ち上げた。

⑨成年後見活用講座

地域社会における権利擁護の推進を図るため、親族の成年後見人として活動しておられる方、ボランティアとして成年後見人の活動を考えておられる方を対象に平成21年度及び22年度に実施した成年後見活用講座と同じく大牟田市、大牟田市高齢者・障害者権利擁護連絡会、成年後見センター・リーガルサポート福岡支部と協働で開催した。

【開催期日】平成24年8月28日～平成24年9月25日の毎週火曜日　（全5回）
【研修内容】「成年後見制度」「社会資源」「対象者の理解」等
【修了者数】9名

⑩第4回大牟田市地域福祉大会～地域支えあい“絆”セミナー～

市民一人ひとりが大牟田市の地域福祉の現状について認識を深めるとともに、自ら住んでいる地域に積極的に関わりを持ち、自助・互助・共助によるまちづくりをすすめていくことの重要性について理解を深めることで、地域住民の地域住民による、地域住民のための「支えあいの“絆”」を創造することを目的に開催した。

【日　時】平成25年2月2日〈土〉9：30 ～ 12：30
【場　所】大牟田文化会館小ホール
【主　催】大牟田市地域福祉大会実行委員会
【参加者】約400名
【内　容】［第１部］大牟田市社会福祉協議会 功労者表彰式典
（表彰の部）

■市社協役員・評議員（2 名）
■校区社協実践活動者・団体（37 名・1 団体）
■優良校区社協（倉永校区社協）
■ボランティア活動団体（1 団体）
（感謝の部）
■市社協役員・評議員（1 名）
■校区社協実践活動者（56 名）
■ボランティア活動団体（1 団体）
■善意銀行高額寄付者・団体（7 名・2 団体）
■その他特に認めるもの（1 団体）
［演　舞］くぬぎ保育所園児による「エイサー踊り」
［第２部］基調講演　「自立した地域づくり～『やねだん』の取り組みから学ぶ」～
（講師）鹿児島県鹿屋市串良町柳谷町内会
会長　豊重　哲郎さん

(16) 福祉教育の推進

小・中学校を対象として、福祉教育を推進し社会福祉への理解と関心を高めるとともに、ボランティア活動と地域福祉活動への参加促進を図った。

①講師派遣

児童・生徒の福祉教育の推進を目的として、視覚・聴覚障がい者の人などを講師（ゲストティーチャー）として派遣。また、点字の指導には点訳奉仕大牟田むつき会を派遣した。

（派遣状況）

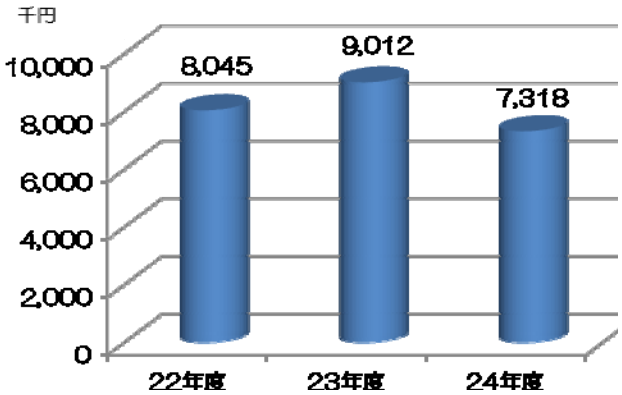
	22 年度	前年比（%）	23 年度	前年比（%）	24 年度	前年比（%）
派遣件数	32	82	34	106	25	74

②機材貸出

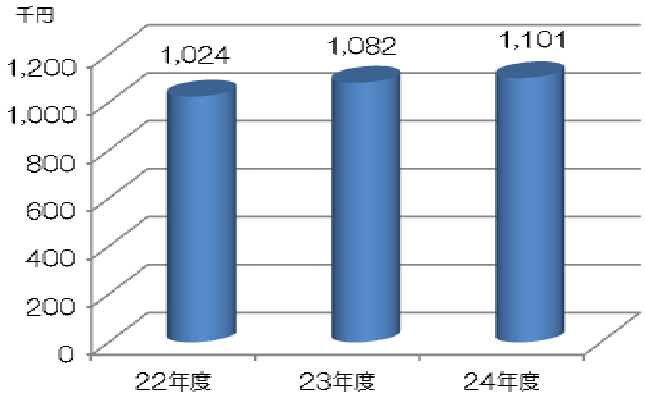
福祉教育に用いてもらうため、小・中学校や事業所に高齢者疑似体験セット・車椅子・アイマスク・白杖・ビデオ等を貸し出した。

(17) 大牟田善意銀行の啓発強化

一般寄付金の 3 ヵ年の推移



賛助会員会費の 3 ヵ年の推移



（寄付金等預託状況）

		22 年度	前年比(%)	23 年度	前年比(%)	24 年度	前年比(%)
一般寄付金	件数（件）	459	106. 7	462	100. 7	408	88. 3
	金額（円）	8, 044, 998	103. 3	9, 011, 791	112. 0	7, 317, 789	81. 2
物品寄贈件数		16	123. 1	21	131. 3	21	100

(賛助会員数等の推移)

	22年度	前年比(%)	23年度	前年比(%)	24年度	前年比(%)
会員数 (個人・団体)	473	114.5	426	90.1	403	94.6
金　額（円）	1,024,000	137.4	1,081,500	105.6	1,101,000	101.8

(18)　市立病院ほっとスペースの運営

平成25年1月16日より、コンビニ機能とリビングダイニング機能を兼ね合わせたお客様に「ほっ」としていただける温かい多機能空間を目指し、社会福祉協議会の特性を最大限に生かしたサービスの提供を行うことを目的に「ほっとスペース」を開設した。

①市立病院ホスピタルローソン

市立病院で運営していたショップの機能を充実し、利用者の利便性を高めるため、大手コンビニエンスストア「ローソン」とフランチャイズ契約を締結し、平成25年1月16日に「ホスピタルローソン大牟田市立病院店」として運営を開始した。

②食事処ほっとリビング

食の安全第一をモットーに、家庭料理の手作り感を大切にした「日替りヘルシーランチ」と「日替わり具だくさんスープ」の２種類を提供。また、ホスピタルローソンでお弁当などを購入された方にも気軽に利用していただけるよう、イートインコーナーとしても活用。加えて、今後ボランティアの協力を得て、“プラス１サービス”として手話講座・傾聴カフェなどのための快適な空間づくりに努めていく。

(ほっとスペースオープンへ向けての主な経緯について)

期　　日	内　　容
5月15日	大牟田市立病院売店等運営事業者選定に係る説明会出席
6月15日	企画提案書提出
7月18日	大牟田市立病院売店等運営事業者選定に係る試食・プレゼンテーション実施
7月23日	大牟田市立病院売店等運営事業者決定通知受領
10月16日	ローソンとのフランチャイズ契約締結
11月10日	大牟田市立病院旧レストランスペース改装工事着工
12月26日	大牟田市立病院旧レストランスペース改装工事完了
1月16日	大牟田市立病院「ほっとスペース」オープン

(19) 総合福祉センターの運営

①総合福祉センター利用状況

	22年度	前年比(%)	23年度	前年比(%)	24年度	前年比(%)
会議室等利用件数	1,030	126.8	1,348	130.9	1,336	99.1
会場使用料収入(円) ①	4,452,543	125.7	4,592,967	103.2	3,455,730	75.2
ﾍﾙｽﾄﾛﾝ利用者数	13,816	120.0	14,250	103.1	15,122	106.1
ﾍﾙｽﾄﾛﾝ利用収入(円) ②	1,381,600	120.0	1,425,000	103.1	1,512,200	106.1
収入合計(円) (①+②)	5,834,143	124.3	6,017,967	103.2	4,967,930	82.5
会議室等年間利用者数	41,508	135.4	44,863	108.1	43,617	97.9

※平成24年度は用途変更に伴う賃貸契約団体の減少及び減免団体の利用増加等に伴い、減額となった。

②絆けんこう教室

総合福祉センター利用者や近隣の地域住民を対象に、毎週月曜日、多目的ルームで「絆けんこう教室」を開催した。毎回、多彩な講師（ボランティア）を招いて、「絆けんこう教室」を実施し、平成24年度は年間延483人が参加した。

(参加者数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人数	45	26	73	30	30	35	55	45	30	44	49	21	483

③総合消防訓練

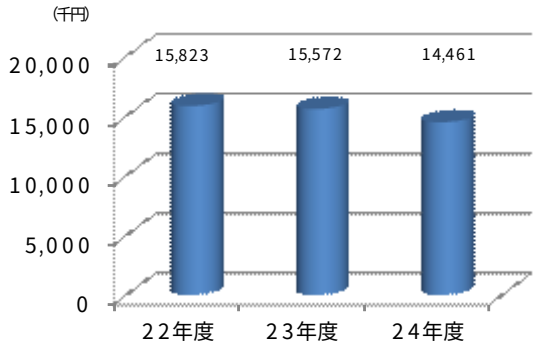
平成25年2月21日木曜日の午後、利用者がいる時間帯に、ボランティア連絡協議会と合同で総合消防訓練を実施した。社協職員は自衛消防隊をはじめとし、それぞれの役割分担（初期消火班・避難誘導班・非常持出班・救助班）に分かれ、センター利用者を西側非常階段より駐車場へ避難させた。また、逃げ遅れた人を想定し、3 階ベランダからの「はしご車」による救出訓練も行った。避難訓練後、水消火器の実演や火災だけでなく「水害」に関する講習も行われ、総勢約 70 名の参加のもと実践的な消防訓練を行った。

(20) 共同募金運動の取組み

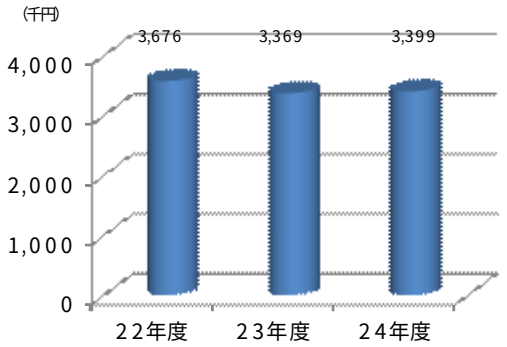
赤い羽根共同募金及び歳末たすけあい募金運動について、福岡県共同募金会大牟田市支会と連携して取り組んだ。

①赤い羽根共同募金及び歳末たすけあい募金実績

共同募金実績３ヵ年の推移



歳末たすけあい募金実績３ヵ年の推移



(単位：円)

	22年度	前年比（%）	23年度	前年比（%）	24年度	前年比（%）
赤い羽根共同募金	15,823,021	95.7	15,572,036	98.4	14,461,125	92.9
歳末たすけあい募金	3,675,789	98.8	3,368,966	91.7	3,399.353	100.9

②共同募金配分委員会の活動

赤い羽根共同募金大牟田市支会においては、平成22年度より市民からの浄財をより公平公正に配分するために配分委員会を設置し。昨年度より従来より配分を受けていた福祉団体だけではなく新たに全市的、先駆的な福祉活動に取り組む福祉団体等も配分対象とした。

福祉団体等の配分申請に基づき配分委員会で審査を行ない、19小中学校及び15の福祉団体等へ平成25年度事業費として総額3,056,130円の配分が決定した。

(配分決定額)

団　体　名	事　業　名	配分交付額
【福祉教育推進校】		
延命中学校	総合的な学習の時間「学びの旅」	３０，０００円
白光中学校	福祉教育推進事業	２８，６００円

歴木中学校	福祉体験活動	２４，０００円
田隈中学校	福祉教育推進事業	３６，０００円
米生中学校	独居高齢者宅訪問	２０，０００円
駛馬南小学校	総合学習福祉教育	２１，２５０円
駛馬北小学校	福祉教育推進事業	４８，７７０円
笹原小学校（Ｈ２５　天原小）	福祉教育推進事業	２２，５００円
大牟田小学校	地域の高齢者とともに	１５，０００円
平原小学校	児童への福祉教育（高齢者との交流）	３５，０００円
銀水小学校	福祉教育推進事業	２７，５５０円
羽山台小学校	高齢者・障害者との交流を通した福祉教育	４５，０００円
三池小学校	福祉教育推進事業	３７，０００円
吉野小学校	福祉教育推進事業	３３，０００円
倉永小学校	高齢者・障害者交流、疑似体験	３４，５００円
手鎌小学校	地域ボランティアの活性化	３０，０００円
大正小学校	ふれあい交流福祉事業	７０，０００円
中友小学校	ESD 推進事業（持続発展的福祉教育）	３０，６５０円
玉川小学校	「体験からの学び」を大切にする福祉教育の推進	５０，０００円
福祉教育推進事業　　合計		６３８，８２０円
【福祉団体及びＮＰＯ法人等】		
老人クラブ連合会	教養事業費	１４５，０００円
民生委員・児童委員協議会	各種研修事業費	４６５，０００円
身体障害者福祉連合会	社会参加促進事業	２５０，０００円
障害児童生徒育成会	学習講演会	３０，０００円
母子寡婦福祉会	親子ふれあい事業	１００，０００円
サンアビ祭実行委員会	パラリン＆サンアビ祭り	１００，０００円
ボランティア連絡協議会	情報交換の場づくり	８０，０００円
大牟田朗読の会	録音音声図書の製作	４５，０００円
要約筆記のぞみの会	聞こえのサポーターミニ講座	４５，０００円
大牟田むつき会	視力障害者のための点訳奉仕	４５，０００円
おおむた手話の会ありあけ	「ありあけ」創立４０周年記念事業	１００，０００円
おもちゃの図書館くるりん	おもちゃの図書館ボランティア養成事業	３０，０００円
心をつなぐ会	障害児・者の医療の充実と啓発	１５８，５７５円
ＮＰＯ法人よかよかﾈｯﾄﾜｰｸ	移動販売「よらんカー」	８９，０００円
ＮＰＯ法人わいわいまちづくりﾈｯﾄﾜｰｸ	障害のある子もない子も高齢者も若者も地域住民も観光客も一緒にできるふれあいの場所づくり	１８２，５５０円
大牟田市社会福祉協議会	グラウンドゴルフ大会・広報紙発行等	５５２，１８５円
福祉団体等　　合計		２，４１７，３１０円

③赤い羽根自動販売機の増設

共同募金運動の重点項目として自動販売機の飲み物を購入すると売り上げの一部が赤い羽根共同募金に寄付される「赤い羽根自動販売機の増設」に取り組んだ。既存の 10 台の自動販売機に加え、事業所や高等学校の協力を得て新たに 3 台の自動販売機が設置された。

④第3回共同募金杯校区対抗グラウンドゴルフ大会＆社協“絆”フェスティバルの開催

赤い羽根共同募金の普及、啓発を目的に、22 校区の地域住民を対象に「赤い羽根共同募金杯校区対抗グラウンドゴルフ大会」を開催した。

また、地域社会における人々の「支えあいの絆」を深めることにより、子ども・高齢者・障がい者にやさしい大牟田のまちを創造していくとともに、「誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるまち」の実現に寄与するために「社協“絆”フェスティバル」を開催した。

【日　時】平成 24 年 9 月 15 日（土）

【会　場】諏訪公園　文化交流ゾーンイベント広場　【参加者】約 2,000 人

【内　容】■赤い羽根共同募金杯校区対抗グラウンドゴルフ大会

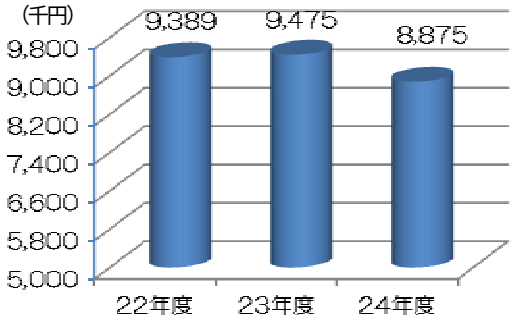
■社協“絆”フェスティバル

■子育てきらりフェスタ

■東日本大震災復興支援みちのく物産展
【主　催】　赤い羽根共同募金杯校区対抗グラウンドゴルフ大会&社協“絆”フェスティバル実行委員会
【協力団体】大牟田市グラウンドゴルフ協会・大牟田レクリエーション協会　ほか

(21) 日本赤十字大牟田市地区業務の取組み

①日赤募金（一般社資）実績の推移



(単位:円)

	22 年度	前年比 (%)	23 年度	前年比 (%)	24 年度	前年比 (%)
日赤募金（一般社資）	9, 113, 593	95. 9	9, 249, 787	101. 5	8, 629, 984	93. 2
日赤募金（法人社資）	275, 000	91. 7	225, 000	81. 2	245, 000	108. 9
計	9, 388, 593	95. 8	9, 474, 787	100. 9	8, 874, 984	93. 7

②平成24年度　校区の献血実績について

区　　分	受 付 者（人）	献 血 者（人）	不　適（人）
地　域（校区22回　LC３回　JC２回）	2, 789	2, 183	606
職域別（２９回）	1, 623	1, 336	287
学域別（ ７回）	608	486	122
街　頭（イオンモール大牟田１２回）	1, 137	859	278
合　　計	6, 157	4, 864	1, 293

(22) 各種寄贈及び助成について

平成 24 年 5 月、聴覚障害者福祉協会よりシュレッダーの寄贈を受けた。さらに、平成 25 年 1 月、日本財団より福祉車両の助成を受けた。

(23) 職員研修の取組み

①全職員研修

日　　程	講　　師	研　　修　　内　　容
4 月 26 日	大牟田市社会福祉協議会 馬場　朋文、村上　英美	平成 24 年度事業計画・予算について
5 月 24 日	大牟田市社会福祉協議会 馬場　朋文	対人援助について（事例検討）
6 月 28 日	大牟田市社会福祉協議会 各担当主査、主任	平成 23 年度事業報告・決算について
8 月 23 日	山口県共同募金会 久津摩　和弘氏	ファンドレイジングの基礎概念について
9 月 27 日	大牟田市社会福祉協議会 宮園　一子	赤い羽根共同募金運動について
11 月 22 日	大牟田市社会福祉協議会 平塚　充昭	職場の人権について

12 月 20 日	大牟田市障害者協議会 事務局長　大場　和正氏	障害学
1 月 29 日	熊本県ボランティアセンター 所長　江口　俊治氏	災害ボランティアセンターの機能と 社会福祉協議会の役割について
2 月 28 日	大牟田市消防本部　職員	救命救急講習 （心肺蘇生法及びAED 操作方法）
3 月 28 日	大牟田市社会福祉協議会 前田　佳宏、内野　周一	①日常生活自立支援事業における専門員養成の課題について ②住民主体のまちづくりの現状と今後の展開 ～大牟田市における地域福祉活動の充実に向けて～

②ホームヘルパー研修

日　　程	講　　師	研　　修　　内　　容	参加者
4 月 18 日	大牟田市社会福祉協議会 内田　勉	大牟田市社会福祉協議会の概要① ～東日本大震災復興支援活動について～	30 名
5 月 16 日	大牟田市社会福祉協議会 内田　勉	大牟田市社会福祉協議会の概要② ～知的障がい児・者医療支援プロジェクト～	28 名
6 月 20 日	大牟田市社会福祉協議会 ボランティアセンター	大牟田市社会福祉協議会の概要③ ～住民参加型福祉サービス他～	27 名
7 月 18 日	大牟田市役所　生活衛生課 中山　良枝氏	家庭における食中毒予防 ～家庭でできる食中毒予防のポイント	25 名
8 月 22 日	大牟田市社会福祉協議会 中村　由美	食育講座 ～糖尿病の食事療法～	23 名
9 月 24 日	大牟田警察署 江口 交通係長	交通安全講座	22 名
10 月 17 日	大牟田市社会福祉協議会 宮園　一子	赤い羽根共同募金運動について	24 名
11 月 21 日	大牟田市消防署 消防署職員 4 名	ヒヤリ救急救命！ ～AED の使い方と救急救命～	25 名
12 月 19 日	大牟田市市民生活課 石丸　美穂子氏	だまされない！ ～高齢者を狙う悪質商法撃退法～	23 名
1 月 23 日	大牟田市保健福祉部 甲斐田　みゆき氏	秘密保持の原則について ～個人情報保護の視点から～	24 名
2 月 20 日	大牟田市長寿社会推進課 友添　奈津紀	認知症になっても大丈夫 ～明日のあなたのために～	28 名
3 月 21 日	大牟田市社会福祉協議会 永井　小夜子	リスクマネジメント ～ヒヤリハットと事故報告～	26 名

(25) 東日本大震災復興支援についての取組み

平成 23 年 3 月 11 日、東日本にて未曽有の巨大地震が発生。この直後からテレビや新聞等で流れたあまりにも被災地では「支援される側の立場に立った、本当に必要な支援」を行い、また、そこで学んだ「地域のコミュニティづくり」を大牟田に活かすために、「東日本大震災復興支援～絆～プロジェクトおおむた」は本年度も、南三陸町を中心とした支援活動を展開した。

①絆ベンチの活用

被災地における「絆」づくりを支援するコミュニティの創造を実行していくために、そのツールとして塩害杉を活用した「絆ベンチ」を被災地の木工所で製作し、仮設住宅や共同農園、診療所やバス停に寄贈・設置することで、「雇用の創出」「集いの場づくり」に寄与。絆ベンチを寄贈した。

仮設住宅においては、ベンチに集う会が仮設住民から自発的に発足し、「藤の会」「Ba-Ba ドール」など命名され、人と人をつなげる絆ベンチとして喜ばれている。

ベンチの設置は、南三陸町社会福祉協議会運営の被災者生活支援センターと共同で実施した。24 年度は、

福岡県の助成で50セット、中央共同募金会の助成で32セットを製作・贈呈した。

②観光支援の取組み

震災の影響で観光客が少なくなった宮城県松島町の観光を支援するとともに、大牟田市内において支援活動の拡大を図っていくものとして、宮城県松島町で夏に行われる「瑞巌寺灯道」、秋の「松島紅葉ライトアップ」と、大牟田の祭り「三池光竹」をコラボレーションし「灯籠コラボレーション」を開催した。

今回の取り組みでは「私にもできる支援、大牟田にいてもできる支援」として、広く大牟田市民に協力を呼びかけた。灯籠製作・現地設置には大牟田市のＮＰＯ法人おおむた・わいわいまちづくりネットワークと三池光竹実行委員会の協力を得、また、松島を訪れる観光客の皆さんに配布する鶴1,000羽を折り紙愛好者を始め地域のサロン等に集う皆さんに折っていただいたり、観光客に配布するはがきに貼る押し花シールを押し花作りの指導者及び門下生に作成していただいたことで、大牟田市内において支援活動への参加者が拡大した。

松島においては、来場者数が当初予想の10倍に膨れ上がるほどの大盛況であった。

灯籠の高い芸術性と、遠い九州から支援に駆けつけたボランティア精神に、多くの方が賞賛と感謝の言葉をかけられた。

また、南三陸町歌津からの要請を受け、松島に飾った灯籠を活用して、歌津の海岸沿いにある商店街前において「3・11　竹灯籠　鎮魂の夕べ」を開催した。

③物産品販売支援

定価買い取りと送料負担による、継続的な被災地物産品の販売支援は、「福幸袋」のネーミングの浸透とともに、徐々にイベント会場や市社協窓口での個人購入だけでなく、企業やサークルのイベント景品、退院祝いや香典返しの品としての購入も始まり、支援活動の広がりが感じられる。

また、これまでに築いた被災地と大牟田との信頼関係から、オリジナル商品開発も始めた。「経木メモ帳」「ネームストラップ」「繭玉人形」など、被災者が新たな生活の糧として取り組める程になりつつある。24年度の売上総額は2,793,630円になる。

④啓発活動

いつまでも大震災のことを忘れずに、継続的な支援を呼びかけるとともに、コミュニティの大切さの啓発、災害時の備えやコミュニティの必要性を啓発するものとして、活動報告会を行っている。学童保育所や中学校、民生委員児童委員の研修会のほか吹奏楽団の定期演奏会などで、計15回実施した。

７月に報告会を開催した大牟田市内の中学校が、11月に2泊3日の生徒・職員被災地研修を実施（プロジェクト派遣員が同行案内）という展開もみられた。

(26) 福祉バス及びリフト付きバスの運行

福祉団体等の福祉増進のため、各種大会や研修会等の参加に際して福祉バスを運行した。また、福祉行事のための荷物等を運般する軽トラックの貸出も実施した。

	22年度		23年度		24年度	
	利用回数	利用者数	利用回数	利用者数	利用回数	利用者数
福祉バス利用状況	83	1,896	77	1,851	98	3,331
軽トラック利用状況			6		3	

(27) 他都市よりの視察状況

月　　日	視察受入	研修内容
7月　4日	宗像市赤間西地区福祉会	校区社協活動について
7月11日	曽於市社協	地域福祉活動について
7月20日	佐賀市巨勢校区社協	校区社協活動について

7 月 20 日	日向市東郷地区民児協	校区社協活動について
7 月 27 日	宮若市社協	地域福祉活動について
8 月 23 日	別府市社協	地域福祉活動について
11 月 7 日	佐賀市日新校区	校区社協活動について
11 月 9 日	柳川市城内校区社協	小地域ﾈｯﾄﾜｰｸ活動について
12 月 11 日	菊陽町社協	地域福祉活動について
2 月 28 日	新宮町社協	意見交換会
3 月 8 日	周南市東富田地区社協	校区社協活動について
3 月 18 日	糸島市怡土公民館	校区社協活動について